



NUCLEUS
RESEARCH

2024 年 BI and Analytics Technology バリュー・マトリクス

アナリスト

Alexander H. Wurm

要点

2024 年の BI およびアナリティクス市場は、先進技術の融合、ユーザビリティを重視した設計、データ活用の民主化推進を特徴とし、生成 AI の統合や、ラインオブビジネス (LOB) ユーザーの使いやすさが求められていると指摘しています。その結果、ベンダーは、従来の BI およびアナリティクス機能を超えた、ノーコードおよびローコードのデータサイエンス、アナリティクスの自動化、データエンジニアリングに重きを置くようにシフトしています。今年のバリュー・マトリクスのリーダーには、Alteryx、Domo、Microsoft、Oracle、Qlik、Tableau が選出されました。



概要

2024 年の BI およびアナリティクス市場の特徴として、先進技術の融合、ユーザビリティを重視した設計、データ活用の民主化推進が挙げられます。生成AIが注目を集めており、組織がデータ文化を従来のデータ部門やアナリティクス部門の枠を超えてラインオブビジネスユーザーへと拡大しようとする中、アナリティクス製品に対する新たな需要が高まっています。

ベンダーはこのトレンドを読み解き、自社のプラットフォームに生成 AI 機能を統合して、使いやすさとアクセシビリティを向上させています。この統合は様々な形で行われており、インサイトの生成や可視化の作成を自動化する機能を提供するベンダーもあれば、完全な自然言語によるチャットベースのインターフェースを開発することで、全般的に洗練された BI 体験を提供しているベンダーもあります。また、ベンダーは、プラットフォームのパフォーマンス向上にも AI イノベーションを活用しています。

それと同時に、より効率的で柔軟なデータ処理プロセスへと進化する業界の流れを反映して、データの準備と変換のための機能はアナリティクスツールの標準機能になっています。ETL の拡充、例えばリバース ETL の採用増加は、この進化を強調するものであり、これによって組織は、特に業務アプリケーションにおいて、より広範囲にインサイトを引き出せるようになります。

このバリュー・マトリクスでは、各ベンダーのソリューションの相対的なユーザビリティと機能性、およびユーザーが各製品の機能から実感した価値（Nucleus Research X222 - Understanding the Value Matrix - 2023 年 12 月）にもとづいてベンダーを位置づけ、市場の概況として表示しています。ユーザビリティと機能性について動きがみられる場合は、その傾向を矢印の方向で表しています。位置づけと動きについての情報は、主にエンドユーザーとの対話のほか、最近リリースされた機能やその性能、ベンダーの投資内容などにもとづいています。

リーダー

今年のバリュー・マトリクスのリーダーには、Alteryx、Domo、Microsoft、Oracle、Qlik、Tableau が選出されました。

Alteryx

Alteryx は、2024 年 Analytics Technology バリュー・マトリクスにおいてリーダーに位置づけられました。分析、データ準備、可視化に対する Alteryx のアプローチは、データ統合、準備、ビジネスインサイトの自動生成、分析、機械学習モデル生成の機能を提供する、包括的なオンプレミスとクラウドネイティブのソリューションを特徴としています。これらのソリューションにより、IT やデータの専門家が関与しなくても、様々なスキルセットのユーザーがソースから直接データにアクセスし、ローコードまたはノーコードの分析を実施し、機械学習モデルを構築することが可能になります。Alteryx AI Platform for Enterprise Analytics には、Alteryx Analytics Cloud によって、Alteryx Designer Cloud、Alteryx Machine Learning、Alteryx Auto Insights などの主要アプリケーションが含まれています。Alteryx Designer Cloud は、様々なソースから取得したデータの準備、ブレンディング、出力に対応するノーコードの環境を提供し、デスクトッププラットフォームとクラウドプラットフォームで相互運用することができます。Alteryx Machine Learning は、ビジネスアナリティクス用のモデル作成をガイドするクラウドネイティブの AutoML ソリューションを提供し、説明可能性の機能を通じて透明性を確保しながら、モデル選択と特徴量エンジニアリングを自動化します。Alteryx Auto Insights は人工知能を活用して分析とレポート作成を自動化し、SQL クエリの生成

の自動化、可視化の作成、アラートの設定、スケジュールレポートによってアナリストのタスクを最適化します。

過去 12 ヶ月に行われた重要な製品発表および変更には、以下が含まれます。

- Alteryx は、Clearlake Capital および Insight Partners との 44 億ドルの取引で非公開化し、製品の革新を加速するための追加リソースを組織に提供しています。
- Alteryx は Databricks とのパートナーシップの拡大を発表しました。Databricks の市場との新たな統合を通じて、既存のユーザーは Alteryx Analytics Cloud の無償トライアルにアクセスでき、Databricks のツールと Alteryx のデータおよびアプリケーションを組み合わせやすくなります。
- Alteryx は、企業での生成 AI の導入を促進するために、Alteryx AiDIN のイノベーションを導入しました。これには AI Studio が含まれます。AI Studio は、組織がカスタムビジネスデータに最適な LLM を、利用可能なオプションのリストから選択してデプロイできるインターフェースです。AI Studio の注目すべき機能として、ユースケースの考案、ユースケースの選定、POC の開発など、分析ワークフローの初期段階を加速させるツールである「Playbooks」があります。AI Studio は Alteryx Designer と統合されているので、ユーザーは既存のワークフローを通じて簡単にモデルを利用できます。
- Alteryx は、Alteryx AiDIN に Workflow Summary ツールを導入しました。このツールは、ユーザーがアナリティクス自動化ワークフローを自然言語で要約するのを支援します。

Domo

Domo は、2024 年 Analytics Technology バリュー・マトリクスにおいてリーダーに位置づけられました。Domo の AI およびデータプラットフォームについては、使いやすいダッシュボードとリアルタイムに近いデータの可視化の機能を備え、ビジネスデータをアクションにつなげることができる BI（ビジネスインテリジェンス）であると評価されました。Magic ETL や自動化されたガバナンス、クラウドネイティブで動作するプラットフォームの諸機能により、データを安全かつ効率的に管理。レガシーシステムとクラウドデータプラットフォームの両方に対応しています。単一機能のツールを組み合わせるために、サイロ化し不具合が発生する恐れのある従来システムと異なり、Domo は、既存のツールをプラットフォーム上で統合しながら、様々な機能を利用可能とする包括的なソリューションを提供します。プラットフォームには Domo.AI が搭載されており、機械学習、自然言語処理、予測分析、生成 AI の機能を、統合されたサービスの一部として利用できます。さらに、Domo App Studio ではカスタムアプリケーションのローコード開発やプロコード開発を行えるので、ユーザーエクスペリエンスのパーソナライズが可能です。プラットフォームのワークフローエンジンと自動化されたガバナンスにより、信頼度の高いセルフサービス分析を大規模に実施できます。このアプローチにより、Domo は IT のセキュリティニーズとビジネスアジリティとのギャップを埋める包括的なソリューションとして位置づけられています。コンサンプションベースの価格モデルがもたらしたメリットにより、ユーザーはプラットフォームが提供する幅広い機

能を簡単に利用することができます。

過去 12 ヶ月に以下の製品アップデートが行われました。

- Cloud Amplifier の統合機能が強化され、Snowflake、BigQuery、Dremio、Databricks、Redshift など、主要なクラウドデータウェアハウスに対応するようになりました。Cloud Amplifier が提供するサービスでは現時点で、Snowflake（読み取り、書き込み）、BigQuery（読み取り、書き込み、Oauth）、Dremio（読み取り）、Databricks（読み取り）、Redshift（読み取り）をサポートしています。
- Magic ETL のアップデートにはサブセット処理とパーティショニングが含まれ、ユーザーはデータソースからデータの一部またはサブセットを抽出し、データをより小さく、より有意なユニットに分割できます。Magic ETL の履歴ページに、グラフ表示、新しい並べ替えオプションが追加され、アクションのサマリーも機能強化されたことで、より迅速に Magic ETL の実行エラーを特定して詳細を分析できるようになりました。さらに Domo には [グループ化] タイルが導入されており、ユーザーが列の集計方法を定義する際に選択可能な新しいオプションが追加されました。
- Domo は、機械学習モデルの作成と統合をサポートする包括的な AI モデル管理システムを導入しました。ユーザーは、Jupyter ワークスペースや AutoML などのツールを使って Domo 上で直接、ML モデルを構築、トレーニング、デプロイしたり、Open AI、Hugging Face、Amazon Bedrock、Databricks ML などのプラットフォームから取得した外部モデルと統合したりすることができます。
- NQL を使ったチャット対話、Beast Mode AI アシスタント、AI アシスタントを使用した DataSet ビューの高度な SQL エディターなど、高度な AI 機能および AI アシスタントが Domo に導入されました。これらのツールは自然言語コマンドによる簡単なデータ操作と、SQL 編集機能の強化を目的に作られています。
- Domo は、App Studio のアップデートとワークフローの導入によって、ノーコードおよびローコードのオフリングを強化しました。App Studio には現在、コーディング不要でカスタムデータアプリケーションを作成できる拡張機能が含まれています。ワークフローは、様々な機能とデータソースを統合し、データドリブンプロセスのルーチン作業を自動化します。
- Domo の Analyzer ツールでは、ネストされた Beast Mode 計算、インターフェースの刷新、新しくなった動的な可視化機能など、いくつかの機能強化が行われました。これらのアップデートは、効率的なユーザーエクスペリエンスの提供と、Domo 内の分析機能の強化を目的としています。
- Domo は、サンキーチャート、傾きチャート、分散グラフなどの新しいチャートと可視化オプションのほか、Workflow Brick や Domo Brick + ChatGPT などの新しい Domo Bricks をリリースしました。これらのツールは、Domo プラットフォームにおけるビジュアルデータ分析の向上とワークフロー統合のために設計されています。

Microsoft

Microsoft Power BI は、2024 年 Analytics Technology バリュー・マトリクスにおいてリーダーに選出されました。アナリティクスに対する Microsoft のアプローチは、主力製品である Microsoft Power BI に代表され、スタートアップからグローバル企業まで幅広い組織に対応するスケーラブルなビジネスインテリジェンスソリューションを網羅しています。Power BI スイートには、Power BI Desktop、Power BI Pro、Power BI Premium、Power BI Mobile、Power BI Embedded、Power BI Report Server などのモジュールが含まれ、Microsoft の継続的なイノベーションとユーザーフィードバックへのすばやい対応を反映して、毎月アップデートされます。Power BI はデータサイロを取り除き、Microsoft のその他のビジネスアプリケーションや、クラウドおよびオンプレミスデータベース、サードパーティソフトウェア、インターネットベースのデータなど、様々なデータソースへのコネクタとのネイティブ統合を通じて、一元化されたデータ管理を促進します。価格設定はロールベースで、スタンドアロンの Web ホストアプリケーション経由、またはほかのアプリケーションへの組み込み機能としてソリューションにアクセスできます。Microsoft は Microsoft Fabric でも Power BI を提供しており、Power BI、Azure Synapse Analytics、Azure Data Factory を単一の SaaS プラットフォームにまとめています。これは、複数のベンダーによる接続されていないサービスをつなぎ合わせて使用することで複雑さが増し、最適なパフォーマンスを実現するためには追加の構成が必要になることが多いデータ環境において、貴重なアプローチです。

最近の製品アップデートと発表には、以下が含まれます。

- Microsoft は、OneDrive および SharePoint の Power BI 向けにライブ接続レポートを発表しました。
- Microsoft は、Power BI 内の AI 活用アシスタントである Power BI Copilot を導入しました。これにより、データ分析と可視化プロセスを向上するための自動化されたインサイトと提案が提供されます。
- Microsoft は、パブリックプレビューで Microsoft Fabric のデータベースミラーリングをリリースし、ゼロ ETL、顧客データに関するほぼリアルタイムのインサイトの提供を実現しています。
- Microsoft は、Fabric でのレポート作成向けに、Excel および CSV のための新しいデータコネクタを導入しました。これにより、ユーザーはファイルを接続して Power BI レポートを作成することができます。
- Microsoft は、すべてのデータ接続タイプできめ細かなアクセスコントロールが一般向けに利用可能になることを発表しました。このセキュリティ機能により、オンプレミスおよびクラウドで組織のデータソースに対してセマンティックモデルをバインドできるユーザーを、組織はより細かくコントロールできるようになります。
- Microsoft は、本稼働ワークロードのトラフィックがパブリックエンドポイントに公開されないようにするため、Fabric および Power BI 向けに VNet データゲートウェイを導入しました。2 倍のコンサンプションがかかる新しいサービスです。

- Microsoft Fabric が HIPAA コンプライアンスに準拠したので、機密データを活用する幅広いユースケースが利用可能になります。
- Power BI Mobile アプリがデータセットに対応するようになりました。これにより、ユーザーはデータセットの詳細を表示したり、ステータスを更新したり、スケジュール更新に何らかの問題があって新たな更新をトリガーする可能性がある場合に通知を受け取ったりすることができます。

Oracle

Oracle は、Oracle Analytics Cloud (OAC) および Oracle Fusion Data Intelligence が評価され、2024 年 Analytics Technology バリュー・マトリクスにおいてリーダーに位置づけられました。Oracle Analytics Cloud は、取り込みとモデル化、準備とエンリッチメント、可視化、コラボレーションを含め、データとアナリティクスのプロセスを最初から最後までサポートする組み込み機能を提供し、セキュリティとガバナンスも備えています。技術にあまり詳しくないユーザーのために最新ツールには、コード不要の機械学習がプラットフォーム全体に組み込まれています。より技術的知識が豊富なユーザーは、分類、回帰、クラスタリング、異常、特徴抽出モデルなど、Oracle Database と Oracle Autonomous Data Warehouse の Oracle 機械学習モデルを登録して使うこともできます。

Oracle Fusion Data Intelligence は、Oracle の Fusion Applications と統合されたクラウドベースのデータ管理およびアナリティクスソリューションで、自動データ検出、セマンティックモデリング、データの整合性とコンプライアンスを確保するガバナンスツールなどの機能が組み込まれています。このソリューションの予測分析機能により、ユーザーは、戦略的計画を向上させる予測や予測インサイトを生成することができます。さらに、Oracle はメモリー内処理や自動チューニングのような機能によって高いパフォーマンスを発揮できるようにプラットフォームを最適化し、大規模なデータセットを効率的に処理できるようにしています。

Oracle はこの 1 年間、Oracle Analytics Cloud と Oracle Fusion Data Intelligence の価値提案を高めるために革新を続けています。

- OAC には、写真のようにリアルな AI アバターとポッドキャストによる生成 AI データインタラクション、JPEG および PDF ファイルをより適切に解釈するための AI によるドキュメントの読み取りなど、新しい AI 機能が追加されました。
- Oracle は、ダッシュボードをより魅力的でインタラクティブなエクスペリエンスとして提供するため、コンテキストチュアルインサイトを導入しました。この機能は、コンシューマーユーザーがダッシュボードを操作する際に、動的に生成された機械生成の推奨をユーザーに提供することによってユーザーの能力を高め、データ管理構成の専門知識がなくてもダッシュボードのナビゲートや修正ができるようにします。
- OAC に AI Language PII 検出モデルのサポートが導入され、データセキュリティを強化しながら、機密情報を活用する分析ユースケースの範囲が拡大されます。

- Oracle Analytics にレスポンスなキャンバスデザインエディターが導入され、複数のレイアウト向けに最適化された可視化を提供してユーザーエクスペリエンスを向上させます。この機能を使用すると、ユーザーが使用しているデバイスの解像度に応じて自動的にダッシュボードのレイアウトが調整されます。
- Oracle Analytics は、REST API 対応の拡大、新しい Tools SDK、埋め込み可能なユースケース向けの高度なデベロッパーオプションも提供しました。

Qlik

Qlik は、2024 年 Analytics Technology バリュー・マトリクスにおいてリーダーに位置づけられました。このベンダーのクラウドアナリティクスプラットフォームである Qlik Sense は、様々なアナリティクスニーズに対応するエンドツーエンドのソリューションを提供します。Qlik が専有する Associative Engine と Insight Advisor をもとにして構築された Qlik Sense は、クラウドデータ管理、可視化、レポート作成、高度なアナリティクス機能を結合します。これらの機能を活用して、ユーザーはデータ接続を確立し、データの関連付けを行うことができます。Qlik の AutoML はそのオフリングがさらに強化され、Qlik 環境内でのキードライバー分析、What-If シナリオ計画、予測モデリングのようなタスク向けのノーコードの自動機械学習機能により、ユーザーの能力を高めます。さらに、Qlik はその導入オプションを通じて柔軟性を提供します。様々な組織固有のインフラストラクチャーに合わせて、クラウドベースとオンプレミスの両方のセットアップに対応します。

この 1 年間、Qlik はエンドユーザーの価値を高めるためにアナリティクスプラットフォームの強化を続けています。

- Qlik は日本初となるクラウドリージョンを東京に開設し、グローバルインフラストラクチャーを強化しています。この動きにより、Qlik のユーザーは日本国内のデータプライバシー法やデータ主権要件に準拠し、データレジデンシーと安定した事業運営を確保すると同時に、地政学的リスクによるデータセキュリティやアクセス途絶の懸念の増大にも対処できます。
- Qlik は、社内および業界全体で倫理的な AI 開発を前進させることを目的として、AI Council を発足させました。この取り組みは、変革的かつ責任ある AI 導入アプローチを期待できる革新的な AI ソリューションに対する Qlik のコミットメントを明確に示しています。
- Qlik は Kyndi を買収し、構造化データと非構造化データの両方から包括的なインサイトを提供するための AI 機能を強化しました。この動きにより、非構造化データ処理における Kyndi の専門性と Qlik の構造化アナリティクスが組み合わせられ、Qlik のユーザーはより豊かなインサイトを得られるようになります。

- Qlik は、より効率的かつ使いやすいデータライフサイクル管理エクスペリエンスを提供することによって企業のデータ処理を簡素化するため、Mozaic Data を買収しました。Qlik のユーザーは、様々なクラウドプラットフォームにわたって強化されたデータ展開と活用のメリットを得ることができ、新しいユースケースの実装を加速できる可能性もあります。

Tableau

Tableau は、今年の Analytics Technology バリュー・マトリクスにおいてリーダーに選出されました。Tableau のアナリティクスプラットフォームは、データ管理、ガバナンス、可視化、コラボレーションにわたる一連の機能を提供します。ローコードのドラッグ&ドロップ環境を特徴とする使いやすいインターフェースは、技術に詳しくないユーザーでもデータに関与できるようにすることでアナリティクスを民主化します。Salesforce の Einstein AI との統合によって高度なアナリティクスタスクがさらに簡素になり、デベロッパーのプログラミングが不要になります。このプラットフォームの自動データアナリティクス、自然言語による検索、データの説明機能は、ユーザビリティを向上させ、迅速なインサイト発見を促進します。さらに、自動化されたグラフィックおよび可視化生成機能により、分析結果を伝えるプロセスを合理化します。Tableau は、データサイエンスの取り組みをサポートして、特徴量エンジニアリング、モデル選択、データストーリーテリングを支援し、統合された分析ワークフローを促進しています。このプラットフォームは埋め込み可能なので、リーチが拡大します。サードパーティのアプリケーションやレポートにシームレスに統合できるので、幅広い運用状況でデータインサイトを直接提供できるようになります。

最近の製品アップデートおよび発表には、以下が含まれます。

- Tableau と Databricks はパートナーシップの強化を発表し、Tableau Delta Sharing コネクタと Explore in Tableau の機能を導入しました。これらのアップデートはデータ共有、コラボレーション、可視化を合理化し、リアルタイムでデータソースに接続してインサイトを明らかにするためのよりシームレスで安全な方法をユーザーに提供します。Tableau Delta Sharing コネクタにより、チームは組織内外でデータを共有できるほか、複数プラットフォームにわたってライブデータが確実にアップデートされ、データのガバナンスも向上します。Explore in Tableau はデータソースへの接続プロセスを簡素化し、手動でファイルを転送する必要をなくすと同時にデータ探索を強化します。
- Salesforce は、AI の支援でユーザーのデータ探索能力を高めるように作られた AI アシスタント、Einstein Copilot for Tableau のベータ版の提供を発表しました。この新しい機能は、エンタープライズ組織内でセルフサービスのアナリティクスを加速し、アナリストのワークフローを合理化することを目的としています。
- Salesforce は、カスタマーエクスペリエンスとユーザーの生産性を強化するため、生成 AI を利用した一連の機能群である AI Cloud を発表しました。これによって Tableau のユーザーは、自分のアナリティクスワークフロー内で信頼性の高い生成 AI にアクセスでき、データガバナンス管理を保持しながら、パーソナライズされたインサイトや提案を得られます。

エキスパート

今年のバリュー・マトリクスのエキスパートには、Looker、SAP、SAS、Spotfire が選出されました。

Looker

Looker は、2024 年 Analytics Technology バリュー・マトリクスにおいてエキスパートに位置づけられました。Looker は、包括的なデータ探索と可視化機能によって組織の能力を高めるためのアナリティクスプラットフォームです。Looker を使用すると、ユーザーは、データベースに内在する複雑さを取り除くデータモデルを作成およびカスタマイズでき、データへのアクセス性を高めることができます。そのアーキテクチャーは、拡張性のある分散型インメモリーエンジンをもとにして構築されており、大規模なデータセットでもクエリの性能を保証します。このプラットフォームのツール群は、アドホック分析、ダッシュボード作成、エンベッドアナリティクス統合のためのドラッグ＆ドロップインターフェースを網羅し、予測モデリングや機械学習といった高度な機能によって強化されています。また、そのデータガバナンスフレームワークによって常に規制要件に準拠することができ、一元化されたデータアクセスコントロールとバージョンメカニズムによってコラボレーションが促進されます。Looker は、様々なデータコネクタやクラウドネイティブ導入オプションを幅広くサポートすることで、組織独自のニーズに応じる柔軟性を提供し、ユーザーがデータアセットからアクション可能なインサイトを得られるようにします。

過去 1 年間に行われたアップデートには、以下が含まれます。

- Google Cloud Next '24 において Google は、Looker ビジネスインテリジェンスプラットフォーム向けに新たに Gemini AI の統合を発表しました。これにより、AI を活用したデータの準備、分析、エンジニアリング、およびインテリジェントな提案が可能になります。

SAP

SAP は、2024 年 Analytics Technology バリュー・マトリクスにおいてエキスパートに位置づけられました。SAP は企業向けに、SAP BusinessObjects BI と SAP Analytics Cloud の 2 つのビジネスインテリジェンスソリューションを提供しています。SAP BusinessObjects BI はオンプレミスの BI プラットフォームで、データの統合および管理機能のほか、レポート作成、可視化、共有機能を提供します。SAP Analytics Cloud は、セルフサービスのデータ探索と可視化、データのモデル化と準備、拡張分析をサポートする機能を備えたクラウドベースのアナリティクスソリューションを提供します。SAP Analytics Cloud はさらに、機械学習を活用してインテリジェントでコンテキストに応じたインサイトと提案を提供することによってエンドユーザーのエクスペリエンスを高め、組織全体で意思決定プロセスの効率と効果を向上させます。

過去 12 ヶ月に行われた最近の製品アップデートには、以下が含まれます。

- SAP Analytics Cloud (SAC) と SAP Datasphere の統合。これにより、SAP 独自のアナリティクス、データ統合、計画機能を期待できます。

- Datasphere のナレッジグラフ。SAP Datasphere でのグラフベースのモデリングによって、組織システム全体の複雑なデータ関係やメタデータを表現できます。
- Joule コパイロットと SAP Analytics Cloud の統合により、レポート生成が自動化され、自然言語処理を使用してデータを操作できる、チャットのようなインターフェースが提供されます。
- SAP Analytics Cloud のシミュレーション機能により、ユーザーは、予測分析や計画向けにモンテカルロシミュレーションを実行できます。

SAS

SAS は、2024 年 Analytics Technology バリュー・マトリクスにおいてエキスパートに選出されました。SAS はデータの管理と分析のための包括的なソリューション群を提供し、データの取り込みと変換から高度な分析と可視化まで、エンドツーエンドのアナリティクスプロセスに対応しています。オフリングの中核である SAS Viya は、クラウドベースの AI、アナリティクス、データ管理プラットフォームで、様々なソースからデータを取り込み、変換し、可視化します。Viya は、クラウドネイティブの機能を活用してデータの直感的な探索と分析を促進し、ユーザーがアクション可能なインサイトを得られるようにします。さらに、Viya の先進的な可視化ツールにより、ユーザーは、データドリブンの意思決定を促すダッシュボードやレポートを作成することができます。SAS Viya は幅広いガバナンス機能を備えているので、ライフサイクルを通じてアナリティクスプロジェクトとモデルの信頼性とコンプライアンスが保証されます。SAS は機能の完成度が高いことで知られており、不正検出、リスク評価、KPI モニタリングといった主要なユースケースについてはすぐに使用できます。ユーザーは固有の BI および可視化ニーズに合わせて SAS のオフリングを調整し、その価値をさらに高めることもできます。

最近の製品アップデートおよび発表には、以下が含まれます。

- SAS は、開発者やモデラー向けのセルフサービス型、オンデマンドのコンピューティング環境である SAS Viya Workbench の一般提供開始を発表しました。これにより、クラウドネイティブでスケーラブルな環境で SAS や Python の迅速なコーディングが可能になります。
- SAS は、AI アプリケーション開発プラットフォームの SAS App Factory を導入しました。これにより、クラウドネイティブなテックスタックのセットアップと統合が合理化され、SAS の顧客は AI ドリブンのソリューションの開発と導入をより短期間で行えるようになります。
- SAS は、Viya Copilot の機能拡張を発表しました。業界別の AI アシスタントと合成データジェネレーターの SAS Data Maker によって、ユーザーの生産性を高めます。
- SAS と Microsoft は、ユーザーが Microsoft Azure でより簡単に SAS のワークロードを実行できるようにする戦略的パートナーシップを発表しました。このパートナーシップにより、Microsoft と SAS は協力して、業界別モデルなどの SAS アナリティクス機能を Azure や Dynamics 365 に組み込む方法を探ることになります。

Spotfire

Spotfire は、ビジュアルデータサイエンスプラットフォームである Spotfire が評価され、2024 年 Analytics Technology バリュー・マトリクスでエキスパートに位置づけられました。このプラットフォームは、データを分析して可視化するためのツールをユーザーに提供します。保存済みデータおよび移動中のデータのビジュアル分析、予測分析、位置情報分析、ストリーミング分析のための機能を備えています。Spotfire は Spotfire Data Science によって補完され、何百ものコネクタ、データラングリング、拡張機能によって、自動化、ワークフロー再使用、関係者間のコラボレーションのためのリソースを提供します。Spotfire は製造、エネルギー、医薬品などの業界で広く利用されており、多様なデータ分析と可視化のニーズに対応できることで選ばれています。さらに、Spotfire は業界別の可視化と高度なアナリティクスとを組み合わせ、その分野の専門家が、コンピューターだけでは答えられない複雑な問題を解決できるようにします。Spotfire は、データ集約型のユースケース向けに最適化されており、膨大なデータ量、ストリーミングデータ、統合データラングリング、高度な地理空間および時系列の可視化をサポートします。Spotfire が提供するエンタープライズ規模のソリューションは、カスタムでも既製でも、ガバナンス管理され、安全で、幅広いユースケースを持つ何千ものエンドユーザーのニーズに応えるために拡張可能です。Spotfire は業界別の機能に力を入れており、固有の複雑なビジネス問題を解決するための 100 以上の拡張機能と、独自の可視化、アルゴリズム、データコネクタを備えています。

最近の製品アップデートおよび発表には、以下が含まれます。

- Spotfire は、KPI チャートの共有、OAuth2/OIDC の統合、Linux ディストリビューションでのより簡単な導入などの新機能を搭載した Spotfire 14.0 LTS を発表しました。
- Spotfire は、Spotfire プラットフォーム向けの自然言語拡張機能である Spotfire Copilot の提供開始を発表しました。これによりユーザーは、会話型のクエリとコマンドを使って Spotfire とやり取りできます。

アクセラレーター

今年のバリュー・マトリクスのアクセラレーターには、insightsoftware、ThoughtSpot、Yellowfin、Zoho が選出されました。

insightsoftware

insightsoftware は、2024 年 Analytics Technology バリュー・マトリクスにおいてアクセラレーターに選出されました。insightsoftware プラットフォームは包括的なアナリティクスソリューションで、データ統合機能を活用して、ERP、CRM、およびその他のソースを含む企業全体のデータを集約します。その直感的なインターフェースとカスタマイズ可能なダッシュボードを通じて、ユーザーは、多次元分析を行ったり、詳細な

データまで掘り下げたり、ほぼリアルタイムでアクション可能なインサイトを生成したりすることができます。このプラットフォームには、予測モデリング、異常検出、機械学習アルゴリズムなどの高度な分析技術が採用されており、ユーザーは、傾向を特定したり、将来の成果を予測したり、自信を持ってデータドリブンの意思決定を行ったりすることができます。insightsoftware はここ数年、そのアナリティクス機能を強化するために、Logi Analytics、Vizlib、Dundas、Exago など様々なソリューションプロバイダーを買収してきました。買収されたこれらの企業と insightsoftware プラットフォームとの統合が進むにつれ

過去 1 年間に、insightsoftware は以下の発表を行ってアナリティクスプラットフォームの強化を続けています。

- insightsoftware は、カスタマイズ可能な生成 AI チャットフローや予測インサイトなどの新しい AI および SaaS 機能を Logi Symphony に統合すると発表しました。
- insightsoftware は、Qlik Sense 向けの付加価値製品を専門とするロンドン拠点のソフトウェア企業、Vizlib を買収しました。この買収により insightsoftware は Qlik ユーザー向けの提供内容を強化でき、事業計画、レポート作成、アナリティクスのための新機能を提供できます。

ThoughtSpot

ThoughtSpot は、2024 年 Analytics Technology バリュー・マトリクスにおいてアクセラレーターに位置づけられました。ThoughtSpot は、ユーザーがインサイトを得られるように設計された、検索および AI ドリブンのアナリティクスプラットフォームです。インメモリーコンピューティング、分散型検索、機械学習を組み合わせることで、ThoughtSpot は、ユーザーが自然言語を使ってデータをクエリできるように、また、関連性の高い結果をリアルタイムで、直感的な可視化で受け取れるようにします。ThoughtSpot は根本的に、並列処理アーキテクチャーを活用して大規模なデータセットをスキャンし、分析します。リレーショナル検索エンジンがその場で SQL クエリを生成し、SQL について幅広い知識を持たないユーザーでもデータを探索できるようにします。さらに、ThoughtSpot の AI 機能には自動データ準備、スマートなデータ可視化の提案、予測分析が含まれているので、アナリストと業務部門ユーザーの両方の生産性を高めることができます。ThoughtSpot は、使いやすいインターフェースによってデータアクセスを民主化し、企業のあらゆるレベルにわたって組織がデータドリブンの文化を構築できるようにします。

過去 1 年間の製品アップデートと機能リリースには、以下が含まれます。

- ThoughtSpot Embedded で、新たな価格エディション、Vercel Marketplace の統合、サポートチャンネル、教育リソースなど、開発者を対象とした幅広い取り組みを発表しました。
- ThoughtSpot Sage は、AI を活用したアナリティクスのための新しい検索エクスペリエンスであり、大規模な言語モデルと ThoughtSpot のテクノロジーとを組み合わせます。この統合により、ThoughtSpot のユーザーはスキルレベルにか

かわらず AI を活用したアナリティクスを利用できるようになり、より簡単なデータ探索、正確なインサイト、より迅速な意思決定が可能になります。

Yellowfin

Yellowfin は、今年の Analytics Technology バリュー・マトリクスのアクセラレーターです。Yellowfin は、自社製品にアナリティクスを埋め込もうとするミッドマーケットの ISV に加えて、直感的な分析ツールを探している中規模企業や大企業に応える包括的なアナリティクスソリューションを提供します。Yellowfin は、従来型のスプレッドシートベースのデータ処理から高度なアナリティクス環境への転換を促進し、ダッシュボード作成、レポート作成の自動化、データストーリーテリングの機能でユーザーの能力を高めます。特に、Yellowfin のソリューションは、企業の業務ワークフローにアナリティクスを組み込むようにすることで従来型のレポート作成を超えて拡大し、意思決定プロセスを合理化します。Yellowfin は、旧式のレガシーBI アプリケーションを置き換えることによって組織がデータドリブンでいられるようにし、競争の激しい今日の状況で自社を汎用アセットとして位置付けています。

過去 12 ヶ月に行われた最近のアップデートには以下が含まれます。

- Yellowfin 9.10 で閲覧ページの UI が改善されてより洗練された簡素なデザインになり、レポート、ダッシュボード、プレゼンテーションの操作が向上しました。
- システム管理者がデフォルトのブロードキャスト形式を設定できるようになり、レポートやダッシュボードを電子メールでユーザーと共有する方法を柔軟に選べるようになりました。この機能強化により、エンドユーザーは自分が希望する形式でブロードキャストを受け取ることができ、組織全体でアナリティクスインサイトのコミュニケーションとアクセス性が向上します。
- Yellowfin ストーリーでドリルスルーがサポートされるようになったことで、ユーザーはナラティブ内で関連するレポートをナビゲートでき、ビジネスメトリクスのより深い分析と議論が促進されます。
- 新しい Web サービス機能により、ユーザーは Yellowfin のビューにフォルダーメタデータを追加でき、レポート作成のためにデータベースの複雑さが軽減されます。
- Yellowfin のレポートセクションが別の Excel タブにエクスポートされるようになりました。特にタブ付き、または複数ページのセクションレポートで使用するに便利です。このアップデートによって、エクスポートされたレポートの整理と読みやすさが向上し、よりクリアで構造化されたデータプレゼンテーションをユーザーに提供します。

コアプロバイダー

今年のバリュー・マトリクスのコアプロバイダーには、Board International、IBM、MicroStrategy が選出されました。

Board International

Board International は、そのインテリジェントプランニング・プラットフォームが評価され、2024 年 Analytics Technology バリュー・マトリクスにおいてコアプロバイダーに位置付けられました。Board International のアナリティクスオファリングは、ビジネスプランニングの努力、包括的なレポート作成、セルフサービスのアナリティクス、予測分析向けのツール群を提供します。財務計画および分析（FP&A）と戦略的プランニングのための高度な機能で拡張され、ユーザーが複雑なデータセットをナビゲートできるようにします。ビジネスプランニングに対する統合されたアプローチにより、ステークホルダーが財務、営業、経営、人材管理にわたって情報にもとづく戦略を立てられるようにします。特に、その直感的なノーコードおよびローコードのユーザーインターフェース（UI）は、ビューおよびダッシュボードのカスタマイズを促進し、業務部門ユーザー向けにより高レベルのアクセス性を提供します。Board には柔軟性があり、クラウド、オンプレミス、またはハイブリッド環境に導入できます。

過去 1 年間のアップデートおよび発表には以下が含まれます。

- Board は、ユーザーエクスペリエンスの向上、動的なセルフサービスデータ機能、最適化されたエンジンパフォーマンスを特徴とする Board 14 のリリースを発表しました。

IBM

IBM は、2024 年 Analytics Technology バリュー・マトリクスにおいてコアプロバイダーに位置づけられました。IBM のエンタープライズ BI スイートである Cognos は、Framework Manager、Cube Designer、Transformer など様々なスタジオやコンポーネントに分散される、様々なレポートツール、分析ツール、クエリツールをユーザーに提供します。Cognos には、IBM の AI アシスタントである Watson がシームレスに統合されているため、このプラットフォームに自動予測分析および非構造化データ分析の機能が加わっています。Watson の機能を活用して、Cognos ユーザーは、データプライバシーの管理についての推奨、インサイトやクエリ情報にアクセスするための会話型インターフェース、プロセス自動化ツールなどの高度な機能のメリットを得られます。Cognos と Watson の融合により、ユーザーは、複雑な行動プロファイルの生成、感情や口調の分析、テキストから音声への変換、自然言語クエリを使ったデータ操作を行うことができます。

最近の製品アップデートおよび発表には以下が含まれます。

- IBM Cognos Analytics が自然言語によるクエリをサポートするようになったため、ユーザーは会話型の入力でデータを操作でき、すばやくインサイトを取得できます。

- ユーザーは IBM Cognos Analytics ダッシュボードを活用して視覚的にデータの探索やモニタリングができ、データセット内の主要なインサイトや傾向を迅速に特定できます。
- IBM Cognos Analytics に、プロフェッショナルのレポート作成者および開発者向けの Web ベースのレポート作成ツールが導入され、様々なデータベースのレポートを作成できるようになります。
- IBM Cognos Analytics のモデリングコンポーネントに新機能とその他の調整が導入され、特に、データモデリング機能を向上させるデータモジュールの強化に重点が置かれています。IBM Cognos Analytics と Jupyter ノートブックが統合され、ユーザーはプラットフォーム内でノートブックを作成、アップロード、操作できます。ユーザーは Python スクリプトを使用して Cognos Analytics のデータを操作し、ノートブック出力をダッシュボード、ストーリー、レポートに組み込むことができます。
- 強化された管理ツールを使って IBM Cognos Analytics コンポーネントのセキュリティ、アクセス、および全体的な機能を管理し、プラットフォーム内で安全かつ効率的に業務を遂行できます。

MicroStrategy

MicroStrategy は、2024 年 Analytics Technology バリュー・マトリクスにおいてコアプロバイダーに位置づけられました。この組織は、あらゆる規模の企業が分析アプリケーションを開発および導入できるようにする、一元化されたプラットフォームを提供しています。MicroStrategy は、レポート作成、分析、リアルタイムでのデータ可視化、および機械学習機能など、様々な分析ニーズに応える包括的なツール群を提供します。ビジネスインテリジェンス（BI）機能で企業のデータと分析に関するニーズに対応し、ほかの BI ツールや統計プログラムと統合することもできます。このプラットフォームには、データ準備、予測分析、レポートおよびダッシュボードの作成、可視化オプション、モバイル分析、多様なデータタイプへのアクセス、埋め込みの HyperIntelligence ツールなどの機能が含まれます。MicroStrategy は、航空宇宙および防衛、銀行および金融サービス、通信、建設、不動産、消費者向けパッケージ商品、物流、高等教育、政府機関、ヘルスケア、保険、ホスピタリティおよびレジャー、製造、メディア、石油およびガス、化学、小売り、運輸、ユーティリティなど、幅広い業界を対象としています。